

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年7月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1173100940
法人名	メディカル・ケア・プランニング株式会社
事業所名	グループホームつどい「西村家」
所在地	〒360-0846 埼玉県熊谷市大字拾六間字後原726-10 (電話) 048-530-3648

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年7月8日

【情報提供票より】(平成19年12月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算	14.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり1,500円			

(4) 利用者の概要(平成19年12月21日現在)

利用者人数	12 名	男性	7 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2		2 名	
要介護3	4 名	要介護4		3 名	
要介護5	1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 80 歳	最低	61 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	籠原病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、会社の方針として「医療と介護のトータルケア」を目指し、会社全体のサービスの標準化を図ることを方針にして各施設共通の「10の約束」を掲げている。職員の内部研修(入職時・介護・医療・マナー)も全職員を対象に各研修が年数回ずつ行われ、ホーム長の声掛けで職員が交代で出席している。ホームは新興住宅地内にあり、周辺には若い世帯が多いが、グループホームの理解と連携を図るために自治会に入会し、ゴミ拾いやパトロールなどの地域活動も担っている。今後も地域の行事等に積極的に参加し、ホームの行事も多く取り組んでいきたい意向である。また、重度化する利用者が増える中で2回の看取りの経験を活かし、出来るだけホームにて生活を続けていけるように関係者と話し合い援助を行っていく考えである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果については、全職員による改善に向けた具体的な取り組みまでには至らなかったため、単なる評価で終わってしまっている項目がある。業務日誌等の記録については本部との連携もあり、ホーム独自の改善もしにくい点も伺えるが、改善できるところは可能な範囲内で行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価については、主にホーム長が行った。項目によっては職員と相談しながら行っているが、日々のケアの振り返りや見直しも兼ねた全職員での評価への取り組みまでには至っていない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は年に3回開催されている。会議のメンバーには家族や民生委員がいるが、地域住民や自治会長や老人会長、地域包括支援センター・行政の担当職員など地域における幅広い立場の参加が少ない状況である。会議では、ホームの現状等の報告を行い意見交換をしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の近況については、家族等に2か月に1回社内報に写真を添付して報告している。緊急を要することや、利用者に変化があった時は、そのつど電話連絡している。苦情や要望、意見等は、電話や来訪時に職員が雰囲気作りをしながら直接聴き、すぐに対応したり、職員間で話し合いを持ってから対応している。また、運営推進会議でも意見を聞いて運営に反映しているほか、法人としての窓口が本部に設置され、社内の処理手順に従って運営に反映している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時等で挨拶を積極的に行うことから交流が生まれ、花などをいただいたりしている。また、いろいろなボランティアを受け入れて楽しみながら地域の方々と交流している。自治会にも加入し回覧等で知れた情報で、ごみ拾いや地域パトロール等の地域活動も担っている。また、ホームのクリスマス会には住民にも声かけをして参加してもらうなど地域との連携に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの案内(埼玉エリア)に「人間の尊厳を大切にしながら、地域の中で生活すること」を基本理念にし、さらに続いて「～住み慣れた地域社会で安心して介護が受けられる～」とあるがホームの理念にその趣旨が十分活かされていない。		「10の約束」の上位に地域や利用者のニーズや事業所の状況を勘案の上、事業所として、地域の中でその人らしい暮らしが続けられることを支援する地域密着の理念を作り上げ、利用者、家族及び地域住民に広く知らせるような取り組みが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営方針の実践に向けての手段として、会社全体としての「10の約束」を事務室の前に掲げ共有し、会議等でも話し合い日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時は挨拶を積極的に行っている。自治会に入会し回覧板も回ってきており、住民としてごみ拾いやパトロールなどの地域活動にも参加している。また、ホームのクリスマス会などには住民に声掛して参加してもらい交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、ホーム長が出来る範囲内は行い、相談すべき項目は、職員と相談しながら行った。前回の評価については、改善できるところは行ったが、改善シート等を作成しながら具体的な取り組み方についての話し合いまでには至っていない。		評価の意義とねらいについて話し合い、自己評価についてはケアの振り返りや見直しも兼ね、全職員で取り組むことが望まれる。評価結果についてはミーティング等で報告し、改善計画を立て具体案の検討などし、質の確保や向上に活かしていくことを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に3回の運営推進会議を開催している。会議では、ホームの現状等の報告を行い意見交換をしているが、メンバーの中に地域住民や地域包括支援センター、行政の担当職員の参加が少ない。また、自己評価の内容説明や外部評価の結果を公表し、評価の効果を高め、取り組みについての話し合いも出来ていない。		運営推進会議に地域の幅広い立場の人に参加メンバーになってもらうよう、積極的に粘り強く働きかけることが望まれる。ホームの現状や評価結果の公表、取り組み状況等についての意見交換を行い、会議を地域でのホームの理解とサービスの向上につながるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護を受けている利用者が8名ということから、福祉課や介護保険課と連携をとり、相談や指導を頻繁に仰ぎ協働関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	近況報告は2か月に1回、社内報や写真等を同封の上送付している。金銭管理については利用料と一緒に報告し、緊急を要することや変化のあった時はそのつど電話連絡をしている。職員の異動等については面会時に挨拶を行うようにしている。		利用料の請求等と一緒に月1回程、担当者の一言コメントを記入して家族に報告することで、家族の安心感や意見の表出にもつながるため、職員間の話し合いが望まれる。コメント記入の際は、定期的にモニタリングの項目(生活、健康)を参考に書類を作成することなども一つの手段と考えられる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や来訪時、また運営推進会議の話し合いの時に、意見、不満、苦情を出しやすい雰囲気づくりに配慮しながら聞く機会を作り、ホームの運営に反映している。また、法人としての意見を聞く窓口が本部にもあり、そこで表出された意見等は、社内の処理手順を経て運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や異動の場合は引継ぎ期間を設け、利用者には馴染みの支援が行えるように配慮しながら対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時年4回の研修のほかに、介護職研修、医療研修、マナー研修等の法人内部研修が、全職員を対象に毎月のように行われ、管理者の声掛けで仕事上として出席している。また、外部研修に出席した時は報告を行い、職員が共有することもある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護サービス協議会に参加し、事例検討や情報交換をしたり、他の事業所と交流し、ケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>連絡のあった家族と相談した上で、職員2人で自宅に出向き、本人や家族から生活歴や趣味、意向等を聞きながら馴染みの関係を築いている。また、見学に来てもらい、利用者と一緒にお茶を飲んだり会話をしながら雰囲気をつかんでもらうなどして、利用者、家族が安心して利用できるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者本人が出来ることや得意とする分野で力を発揮してもらい、感謝する場面や共感したりすることでお互い支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の生活の会話や行動から、一部東京センター方式を活用し、職員で話し合いながら本人本位の意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者個々の生活歴等を参考にしながら、ホームでの生活の意向や希望を家族や本人に聞いて話し合い、アセスメントシートを作成した上で、本人に合った介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3か月ごとに見直しをしている。定期的な見直しとともに変化のあった時には、本人や家族等に希望を聞きながら関係者で評価や話し合いを行い、現状に合った介護計画になるよう見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診や特別な外出など、その時々状況に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談の上、かかりつけ医があまり遠くない場合は、希望する医療機関で受診出来るよう支援している。受診結果については、家族等に必ずそのつど連絡し共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今まで2回の看取りを経験している。入居時に、重度化した場合ホームとして最大限出来ることを説明した上で、状況により本人や家族の意向に合わせ、主治医や職員と相談しながら方針を決め支援につなげている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人台帳等の管理は利用者の目に触れない事務所等に保管している。社報等の掲載の写真については、家族に同意を得て納得のいく掲載にしている。利用者の尊厳を守る言葉かけや対応には十分気をつけており、また、個人情報の秘密保持も出来ている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の声掛けが頻繁になりすぎないように間をおきながら、本人の気持ちやペースに合わせるようにしている。その日の体調に配慮しながら本人の意向にそって柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や食材の発注は管理栄養士が行い、前日に届いた食材を使ってホームで調理している。職員も同じテーブルを囲んで食べており、利用者との会話もあり楽しい雰囲気である。ホームの行事や季節感に応じた料理も献立に採り入れ、女性利用者と一緒に用意している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	回数や曜日に決まりはなく、体調に配慮しながら希望に合わせ、昼間の時間帯に支援している。また、入浴を拒む利用者についてはタイミングを見ながら声掛けして支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や毎日の生活の中から、編み物や庭木の剪定など得意なものや好きなことを把握して、その方の出来ることが役割や楽しみごとになり得るよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日の散歩のほか、週2回おやつを買出しや100円ショップへの買い物に行っている。近くに公園がないことから、共用空間の続きにあるウッドデッキにテーブルや椅子を置き、お茶を飲んだり日向ぼっこをしながら外気にふれ、気分転換のできる場にしたいと検討している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの前がすぐ公道であるため、職員の手不足の時は鍵をかけるが、必要時以外は鍵をかけないようにし、玄関の戸に風鈴のようなものを付けて工夫をしている。家族も同意している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や警備会社(火事)の方3人が来る体制を作り、利用者と共に年2回訓練を実施している。近隣の馴染みの方には協力いただけるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成した献立を調理している。また、摂取量をチェックするとともに、体重等と合わせて主治医に相談しながら、その方に合った食事になるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はスッキリとしているが、共用空間には季節がら手作りの七夕が飾られている。また、印刷物や雑誌等も利用者がいつでも見られるよう整理棚に置かれ、畳コーナーもあり居心地よく過ごせるようになっている。また、音量や温度等にも気を付けている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の協力を得ながら各々が自分の使い慣れた馴染みの物や大切な物品を持ち込んでいる。また、自分の作品を飾ったり置いたり、その人らしく居心地よく過ごせるように配慮された居室となっている。		